

陸上投

21年ぶりの快拳 中谷さん全国出場



全国出場が決まった笑顔の中谷龍生さん

野球

心の差を感じた試合

6月23日(土)に開催された第10回全国高校野球選手権記念大会北北海道大会十勝支部予選。芽丘は「どしどし市風太さん(24日)に拮抗相模高校と対戦し、0対1で初戦敗退を喫す」を感へず」と意気込む。部員を支えたスーパースターの真鍋智都さん(3B)は「練習してきたことを出し切れた試合で、悔しい」声を掛けた」と語った。顧問の市川賢一先生は「こんな結果で終わるとは思っていた。今後は、3年生がやってきた活動を引き継ぎながら強くしたい」と語った。(相三)はと言葉を響けた。



6月19日から19日の4日間、札幌に行われた陸上の全国大会で3位を記録した中谷龍生さん(3日)	は来月三重県で行われるインターハイに出場する。そこで今回、中谷さんと意気込みを取材した。
「アロになれるもの ならならだい。東京オ リンピックで金メダル と振り返る。敵ハは を徹底して練習した」 の練習など「アーム の練習など」アーム	21年からの全国進出に 中谷さんにはめっちゃ 嬉しい。皆さんも期待 していただきた」と コメント。そして「ベ ス」とメッセーじ を送った。
「抜けるアームを 作るため抜込みを重 ね、冬は足元のアロッ	71年、73年、77年と の全国大会出場は19 を目標にし、それを超 えていって全国で優勝 したい」と意気込みを 語った。

将来は金×タニート

英倫新貴

■発行所■
北海道河西部芽室町東めむろ
1条北1丁目6番地

■発行責任者■

上村の

■印刷所■

美印印刷株式会社

〈價次〉

- ▶ 1面 ▶ 陸上部・野球部
結果報告 / 局説
- ▶ 2面 ▶ 芽高祭特集①
- ▶ 3面 ▶ 芽高祭特集②
- ▶ 4面 ▶ 300号記念特集①
- ▶ 5面 ▶ 300号記念特集②
酢っぱい
- ▶ 6面 ▶ 部活動特集
- ▶ 7面 ▶ 化粧特集
- ▶ 8面 ▶ 丹当特集 / 先生のめ
きみにきゝめた
編集後記

局說

再考乗車ノ十一

大成駅から下校する生徒(上)と現在の
ロミオニクス(下)



学校の手配として
 列車を利用する生
 徒は多かつた。と
 増便されたのは10
 月以前、大倉駅の
 面を跨ぐコッパリ
 を思慕るのがあ
 る。何れは「ボク
 ン」で上り、これ
 が通路に立てるを
 得ながら妨になつ
 て、風の車行く
 くらうに留まり続
 けを絶んだものだ。
 当時の先輩たちが
 整えてくれた列車
 の環境を、自分たち
 にもある。
 教室が現在の場所
 しては、まだ、昔の
 ような自由田といふ
 もの、教室生之列
 車との関係には様々
 なことがあった。昔
 馬ねずに、その一
 事以内の行動を言
 列車が不慮に停車
 したことになるか。
 うかだつたか。

第68回
茅高祭



優秀賞 ORANGE
秀賞 BLUE, GREEN

芽高新聞
300号
記念特集①

～芽高今昔物語～ 役目を果たした季節定時制

芽高の歴史は定時制から始まった。今回我々はこの点に注目。芽高定時制の方で、定時制に関わる先生方に話を聞いた。



開講を伝える芽高新聞
再刊第37号
(1984年3月10日発行)



1971年当時の卒業
アルバム(左・右)

芽高の定時制は全日
制よりお前に1948
年に農業科、50年に家
庭科が設定された。

田中さんは「学校祭や
クラブ活動など色々な
行事があり楽しかった。
当時、夏休みに農家さ
らへ泊り込みをし、豊
業を学んだらしたこと
もあった」と振り返っ
てくれた。

時代の流れで 変わる定時制

の定時制農業科もその
ある人が多かったと



定時制について話す市山先生

3月で閉課した。定時
制で養護教諭として勤
務していた寺嶋理恵子
先生(現在は帯広農業
高校全日制勤務)は、
結局、十勝管内では
現在、定時制として残
るのは帯広柏葉高校の
夜間定時制普通科のみ
だ。柏葉高校定時制に
勤務する檜山勲先生は、
「様々な理由で定時制
の必要とする生徒がい
なくなった」と定時制の必要性
を述べた。」とのこと。

しかし、芽高の定時
制は、進学志向による
普通科希望の生徒増大
と農業人口の減少によ
り1984年に閉課し
た。だから十勝管内には
入試方法が面接のみの
ためか、学力に不安が
存在した。市山先生一
人で4年間学んだそう。

山先生。
だが閉課は残念」と市
山先生。
また、音更高校同様
に昼間定時制があった
ある人や金銭的理由が

今は昔こころは芽高ありけり

新聞屋には、ミシカ
資料写真がある。6枚
には無い部活だ。他に
もコト同好会や科学
部等があった。続いて
年代中・後期の様々な
①・②は現在の芽高



かつてあった
ソフトボール部



こちらもかつてあった
剣道同好会



派手な衣装を着た
当時の学生達



盛り上がりを見せる
外ステージのバンド



派手な装飾の
外ステージ



屋上で昼食をとる
当時の学生達

- 芽高の良し、所好を64票**
- 1位 仲間が良し、優しい 61票
 - 2位 明るい、楽しい 43票
 - 3位 制服が良い 15票
 - 4位 家から近い 9票
 - 5位 行事が楽しい 8票
- 芽高の改善すべき点**
- 1位 行事の改善 51票
 - 2位 部活動の強化 46票
 - 3位 制服 29票
 - 4位 ルールを守る 28票
 - 5位 授業の改善 8票

左上の、芽高の良
や模範市の実施、合唱
祭の復活等の提案があ
った。次いで部活動強
化、制服変更(夏服に
いすきが最も多かつ
た。他にトイレに音
波、学校祭が縦割り
などの回答も。
左下の改善点は、
行事が最も多かつた。
行事を挙げることに意識改
革が必要だ。(上村)

これから芽高は... 部活・行事が今後の鍵

生徒に芽高の良さと改善点を聞いた。

今回は、芽高新聞300号を記念して、新聞を通して芽高の歴史を紹介する。

観てみよう！
1960～2010年代の
芽高新聞



①1968年12月25日発行76号
(再刊前の現存最古)

②1975年7月発行再刊5号
(再刊後の現存最古)

芽高新聞のロゴが今と違う。
(詳細は「題字の変遷」参照)現在
は行われていない学校祭での
フレイヤーストーム。夜空
に映える炎が感動を誘う。青春
を感じる学校祭が行われて
いた。

再刊して、ロクが定着していない。だが、新聞を一生懸命作成しているのが窺える。なお、この号のトップ記事は、「生徒会への関心の薄さ」で、現在に通じる部分もある。

なお、大学入学金は当時36万円平均だったと分かる記事も。



6月27日、茅渚町役場にて茅渚OBであり、新聞局OBでもある宮西義憲前茅渚町長に高校時代のこゝとや現在の茅渚生の話を聞いた。

宮西義寛前司馬(73) として生徒会の書記も促す。「生徒会は異
大会の時に、自分達が
中心となつてフォー
タスを種目に入れ
たい、数々のこと
に挑戦して、失
敗もしたが、良い経験
になつた」と語らる。
最近の若者は失敗す
ることを恐れる傾向に
あるが「むしろ、高校
生は失敗しても良い。
失敗した経験があれば
社会に出てから何と
かなる。逆に、失敗を
恐れてチャレンジをし
ななくなるのが怖い」と
述べた。

③1961年7月20日発行再刊24号
トッパは現在の校舎の設計図
が決定したことを伝える。3ヶ月前
建設当時のクラムは11号年5クラ
ス。また、旧校舎にない新しい施
設として売店、作業室、書道教室
美術室、社会科教室（現11教室）
ができるというちやましい限り」
と綴っている。

④ 1997年7月24日発行再刊

「両面を通して、女子の
スカート特集」。膝上3
センチを求める女子の声
を載せている。子どもの
権利規約を引用し、生徒
の主張を認めるよう求め
ている。



⑥2010年6月1日发行再刊200号

動じた大西洋教授の著任者として紹介されている記事だ。なお、大西先生は芽高に13年務めていた。着任当時の大西先生は20代だった。

⑤2010年6月1日発行再刊200号
「カウチサーfer」からの留学生
（かつての芽高は留学生を受け
入れていた）、カリスター・ミル
クさん。彼女は三三三。初めて
覚えた日本語は、「何?」と「に
んにちの子。タンスが得意な可
愛い女の子だ。ちなみに彼女、
新聞局員でもあり、連載も持
っていた。

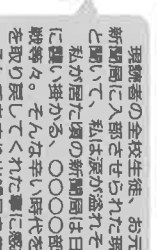
2012～2017年に局長を務めた先輩からお祝いの言葉を貰った

このように号数を重ねること
ができたのも、ひとえに閣下
間の先生並びに現局員の皆さ
ん、そして芽高新聞発行にこ
協力頂いた皆様のおかげだと
思います。これからもますます
のご活躍を心より応援してい
ます。

周長をやっておりますした湯川と申します。300号おめでとうございます。私は、茨城の全国大会に行ったことが一番の思い出です。茨城なのに随のくまモン写真が忘れられませんか(笑) そしてこれから「新聞は愛だ!」を忘れずに!

今まで取材に協力してくださった方々、読者の方々、ありがとうございます。新企画も誕生し、芽蔵新聞は改革の時を迎えています。今後とも、芽蔵新聞をよろしくお願ひします。新聞は愛だ！

新聞局で過ごした日々はとて刺激的で楽しかった思い出がいっぱいあります。中でも葉クィン・ワットの中から真っ黒になったパンがでてきた時の衝撃は今でも忘れません。これらも仲間と一緒に切捨て廃して棄散は新聞局で作り続けてください。



2013～2014局長
野尻香菜さん
(娘がネコになったそうです)

現執筆の全校生徒、お元気でしようか。過去の先輩方、そして随分して新聞局に入部された現同僚の皆さんのおいで無事30号を迎えられると聞いて、私は涙が溢れてきました。おめでたうございます。

私が居た頃の新聞局は日々戦いに満ち溢れていました。次々と部室の扉に鍵がかけられ、○○○部の争いや、内部抗争、○○先生との熾烈な平和競争等々。そんな辛い時代を乗り越え、後輩が私達の意志を引き継ぎ平和を取り戻してくれた事に感謝した。

そしてあまたの出題目を感謝したら、私が消されたそうなので、元中間管理職として一言だけ送らせてください。酔ひやへよ、永遠なれ！ (元局長N)

2010年6月1日発行再刊第200号の200号記念特集で、題字の変遷を特集。ちなみに、上の再刊第5号の題字は幻だったのか、掲載されていない。

⑦2014年10月8日発行再刊1250号
 昇高新聞でもついにカラオケ
 特集！モノカロ(ボーイ・カロイ)
 も遂に？！モノカロに入る時代に……。
 当時の吉田局員が考えた企画は
 歌唱力アップの秘訣。カラオケ
 店を取材し、歌唱力が上がる方
 法を導いたが、下がってしまった
 局員も……。



⑦2014年10月8日発行再刊250号
芽高新聞でもついに力ヲタ

新聞の罫

新聞高升

昭和41年度の調査結果

却てその中にびやう
 ホィアとよつと泳ぎ上
 だつともある人がう
 のではなかつた。し
 面倒臭くて早返さし
 へん。ううううう。
 そんな人でも驚か
 れるのびやうエィア
 を観察する。食事は
 冷たい。例えは朝に
 夜は少なめがよい。口
 中で調整する方法。
 じつまで書いてきた

